日本聴覚医学会

理事長　山岨 達也

理事長
山岨 達也

生まれてから高齢になるまで、私たちは絶えず音を聴き、人とのコミュニケーションや生活の中での危険の察知に役立てるとともに、ミュージックや自然の音を楽しんでいます。この音を聴く仕組みは、聴覚器から中枢までの精緻な構造と生理により成り立ち、未知の部分の多い領域です。

日本聴覚医学会は、聴覚を学ぶ公的な団体であり、行政、議会と共同で難聴の検査や治療に取り組んでいます。2020年には国の難聴対策議員連盟に協力し、「新生児聴覚検査の体制整備事業」と「聴覚障害児支援中核モデル事業」の実現に貢献しました。さらに「新生児を除く難聴対策」も続けて要望し、その内容は「Japan Hearing Vision～ライフサイクルに応じた難聴者(児)支援を実現するために～」に組み込まれています。これらの活動を背景にして文部科学省において「聴覚障害教育の手引き」が四半世紀ぶりに改訂されています。本学会の活動は、小児から高齢者まで幅広い対象に及びます。難聴があると乳幼児では言語獲得が困難となり、高齢者では社会的に孤立してしまいます。聴覚障害は人が生きていくなかで基本的でとても重要なコミュニケーションに関わる障害であり、本学会はその障害を克服し、社会に貢献する活動をしている学会です。

本学会はまた、聴覚に関する基礎研究、難聴の病理と病態生理、難聴の予防と聴覚保護、難聴疾患の治療と障害の解明、聴覚障害に対するリハビリテーション手技の開発と効果の評価、聴覚障害者の社会的問題など、数多くの分野の研究を進めています。例えば、人の内耳は一度損傷を受けると再生が困難で、難聴の治癒が難しいのですが、それに対して本学会では人工聴覚器の適切な使用と普及に尽力しています。さらに近年ではiPS細胞に代表される再生医療を応用した治療法の開発がこの聴覚領域でも進められています。これらの研究分野の発展は目覚ましく、今後、多くの若手の研究者や治療者の参画が求められています。

これから医師を目指す皆さん、また専門を決めていく研修医・専攻医の皆さん、ぜひ一度日本聴覚医学会の活動に触れてみてください。本学会のHPをご覧いただき、毎年秋に開催される学術講演会(学生、研修医は参加費無料です)にいらしていただけますと幸甚です。皆さんと一緒に聴覚の研究、難聴の治療を進めていくとともに、聴くことの大切さ、楽しみを分かち合うことを心待ちにしています。